

ダニエルの書 - 第二十六番

ネブカドネザルの七つの時：異教、教皇主義、そしてアメリカ合衆国を明らかにする預言的タペストリー

Jeff Pippenger
2023-12-21

第四章におけるネブカドネツアルの象徴は驚くべきものである。彼の「七つの時」は、異教（「常なるもの」）と教皇制（「荒廃の背き」）が聖所と軍勢を踏みにじった時期を予表していた。

そのとき、私は一人の聖なる者が語るのを聞いた。すると、別の聖なる者が、語っていたあの聖なる者に言った。「日ごとのささげ物に関する幻と、荒廃をもたらず背きは、聖所と軍勢の双方が踏みにじられることになるまで、いつまで続くのですか。」
ダニエル書 8:13.

13節に記されている「聖所と軍勢の双方」を踏みにじめることは、神の憤りの二度のうち後のほうに当たる「七つの時」を表しており、ネブカドネザルの「七つの時」は神の憤りの二度のうち最初のほうに当たる「七つの時」を表している。しかし、預言的には両者は同じ一本の線として示されている。

私はエルサレムの上にサマリアの測り縄を張り、アハブの家の下げ振りを垂らす。私はまた、人が皿を拭き、拭いてそれを逆さにするように、エルサレムを拭い去る。列王記下 21章13節。

ダニエル書8章13節は、紀元前677年に始まる、ユダ南王国にもたらされた神の憤りの第二の系統について述べている。ネブカドネツアルの「七つの時」は、紀元前723年に始まる、イスラエル北王国にもたらされた神の第一の憤りの系統を表している。ネブカドネツアルの「七つの時」は、異教が聖所と軍勢を踏みにじった1260年と、その後に教皇制が聖所と軍勢を踏みにじった1260年を表している。

教皇主義は、単にキリスト教の信仰を公言する外見で覆われた異教にすぎない。いわば「洗礼を受けた異教」である。カトリックにはキリストやキリスト教を表すものは何もない。世界は暗黒時代の歴史の中でその事実を知ったが、1798年以降、それを忘れてしまった。教皇制の心は異教の心と同じだ。両者の宗教もその儀式も同一である。ネブカドネザルに下った「七つの時」の裁きは、彼に獣の心が与えられることから成っていた。彼に与えられた獣の心とは、異教の宗教を表す心であり、それが露骨な異教であれ、カトリックという外衣をまとった異教であれ同じであった。ホワイト姉妹は、黙示録12章の竜はサタンであると述べるが、第二義的にはそれは異教ローマでもあるとしている。

このように、竜は第一義的にはサタンを表しているが、第二義的には異教ローマの象徴である。『大争闘』439頁。

「七つの時」のあいだネブカドネザルが象徴した獣は、千二百六十日のあいだは竜の獣であり、その後さらに千二百六十日のあいだはカトリック教の獣であった。これらの日々

の終わりには、ネブカドネザルは最終的に偽預言者となるアメリカ合衆国の象徴である。預言的にネブカドネザルは、霊的バビロンを構成する三重の権力、すなわち竜、獣、偽預言者を表しており、彼らは世界をハルマゲドンへと導く。ネブカドネザルは文字通りのバビロンを表しており、そのことによって、終わりの日の霊的バビロンを形作る三つの権力すべての象徴として用いられた。

先に特定した象徴を理解するためには、まず「七つの時」の終わりに彼の王国が回復される1798年において、ネブカドネザルを位置づけることが重要である。ダニエル書第4章をより体系的に検討し始める前に、私たちはこの道標をダニエル書第4章で確立する。

1798年の「終わりの時」にダニエル書の封印が解かれ、この書は、人々を試し清め、礼拝者の二つの階級を生み出す増し加わる光を示すという目的を果たした。ダニエル書の封印が解かれたことは、その時に啓示された真理に基づく三段階の試みの過程の始まりを画した。

彼は言った。「ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されている。多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者がいない。だが、賢い者は悟る。」ダニエル書 12:9、10

ダニエル書とヨハネの黙示録から成る書物の封印が解かれることの預言的な目的は、その書が封印を解かれる時代に生きている世代を試すことにある。ダニエル書十二章には、三つの期間に関する預言が挙げられている。第一は、聖なる民の力が打ち砕かれるとされた1260年の期間である。

しかしあなたは、ダニエルよ、これらの言葉を秘し、この書を終わりの時まで封じよ。多くの者があちこちを行き巡り、知識は増し加わる。そこで私ダニエルは見た。見よ、ほかに二人が立っていた。一人は川のこちら側の岸に、もう一人は川の向こう側の岸に。すると一人が、川の水の上にいる亜麻布を身にまとった人に言った。「これらの不思議の終わりはいつまでですか。」そして私は、川の水の上にいるその亜麻布を身にまとった人が、右手と左手を天に上げ、永遠に生きておられる方にかけて誓って言うのを聞いた。「それは一つの時と二つの時と半時である。また、聖なる民の力が打ち砕かれて散らされるとき、これらのすべてのことは終わる。」ダニエル書 12:4-7

第十二章にあるもう二つの預言の期間は、1290日と1335日である。

私は聞いたが、悟らなかった。そこで私は言った、「ああ、わが主よ、これらの事の終わりはどうなるのでしょうか。」彼は言った、「ダニエルよ、あなたは自分の道を行きなさい。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからだ。多くの者が清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者たちは悪を行い、悪しき者のうちの誰も悟らない。だが、賢い者たちは悟る。日ごとのいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌むべきものが据えられてから、千二百九十日がある。待ち望み、千三百三十五日に至る者は幸いである。」ダニエル書 12:8-12。

その節々では「終わりの時」が二度言及され、ダニエルの言葉の封印が解かれる時点として定義されている。「終わりの時」に封印が解かれるとされる言葉とは、1,260（「一

時と二時と半時」）、1,290、そして1,335という三つの預言的期間のことである。三つの期間のうち二つは「日」と定義されている。三つのうち二つは1798年に終わり、残る一つは1843年のごく末に終わった。それが1843年のまさに末であるのは、その節が「待ち望み、…に至る者は幸いなりに」と述べているからである。

「cometh」という語は「触れる」を意味する。ゆえに、待つ者であり、また1844年の最初の日に触れる者は幸いである。十人の乙女のたとえの遅れの時は、ミラー派の歴史における最初の失望のときに始まり、その失望は1843年のまさに最後の日に到来した。そして1843年のまさに最後の日は、1844年のまさに最初の日に触れる。待つことの祝福は、最初の失望のときに遅れの時が始まったときに始まった。

これらの聖句にはなお取り上げるべき点が多くあるが、ここで私たちが考察しているのはダニエルの預言者としての役割である。この箇所ではダニエルが象徴しているダニエル書の目的は、その書の封印が解かれるときに三段階の検証の過程をもたらすことにある。ダニエルは、その書の封印が終わりの時に解かれるまで、自分の道を行くよう告げられた。章の結びは、終わりの時が到来したときに何が起こるのかを強調している。

しかし、あなたは終わりが来るまで自分の道を行きなさい。あなたは憩い、やがて日々の終わりにには、あなたに定められた分に立つことになる。ダニエル12:13

ダニエル書は、ダニエルの預言の時日の終わりに、その定められた所に立つことになっていた。

「神が人に特別な働きを委ねられるとき、その人はダニエルがそうしたように、定められた分と持ち場に立ち、神の召しに応えるべく備え、御旨を成就するべく備えていなければならない。」『原稿集』第6巻、108ページ。

1798年の「終わりの時」に、ダニエルは自分の定められた分に立った。これは13節では「日々の終わりに」と表現されている。「七つの時」にわたるネブカドネザルの追放の終わりは1798年を指し示す。というのも、それは「日々の終わりに」終結したからである。

そして、その日々の終わりに、私ネブカドネザルは天に目を上げ、私の悟りは私に戻った。私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きておられる方を賛美し、あがめた。彼の主権は永遠の主権、その王国は代々に及ぶ。地に住むすべての者は無に等しいと見なされ、彼は天の軍勢の中でも地に住む者の間でも御心のままに行われる。彼の御手をとどめることのできる者も、彼に向かって「あなたは何をしておられるのか」と言える者もない。同時に、私の理性は私に戻り、私の王国の栄光のために、私の名誉と威光が私に戻った。私の顧問たちと貴族たちは私を求め、私は私の王国において堅く立てられ、さらに優れた威厳が私に加えられた。今や、私ネブカドネザルは天の王を賛美し、あがめ、尊ぶ。彼のすべてのわざは真実で、その道は裁きである。高ぶって歩む者を、彼は低くすることがおできになる。ダニエル書 4:34-37。

「日々の終わり」という表現は、1798年の「終わりの時」を表している。ネブカドネザルはその時、自らの王国において確立されており、その王国はもはや異教と教皇制の獣たちの歴史の一部ではなかった。その時点でネブカドネザルは完全に回心した人を表し、そのことによって、1798年に支配を開始した聖書の預言における地の獣も表していた。その

獣は小羊として始まったが、やがて竜のように語る運命にあった。彼は、イザヤ書23章の成就として象徴的な七十年のあいだ支配することになる地の獣を表しており、ちょうど彼の文字どおりの王国が七十年のあいだ文字どおりに支配したのと同様である。象徴は「隙がない」。

ネブカドネザルは、黙示録12章と13章に描かれている三つの権力のあいだにある予言的な連関を表している。そこではそれらは、竜、海の獣、地の獣として示されている。黙示録16章では、世界をハルマゲドンへと導く三つの権力として描かれている。ネブカドネザルの「七つの時」が、それら三つの獣すべてを結び合わせている。というのも、文字どおりのバビロンは霊的なバビロンを表しており、ダニエル書に見いだされる同じ予言の筋が黙示録で受け継がれているからである。両書は互いを完成させ合っている。

ネブカドネザルは、1798年を、竜、獣、そして偽預言者を結びつける予言的な連関として表している。1798年は、第一の天使のメッセージとミラー派の歴史にとっての『終わりの時』であった。ウィリアム・ミラーは、異教の竜とカトリックの獣の認識に基づいて自らの予言的構造のすべてを築くよう導かれたが、アメリカ合衆国を地の獣および偽預言者とは見なさなかった。彼には1798年の『終わりの時』以前の歴史は見えていたが、未来はなお未来であった。1989年の『終わりの時』に至って、三つの勢力がすべて認識されることになる。

1798年における竜と獣の予言的認識の開封は、第七、八、九章のウライ川によって表されている。1989年における竜、獣、偽預言者の予言的認識の開封は、第十、十一、十二章のヒデケル川によって表されている。ネブカドネツアルは1798年に到来した第一の天使の運動を表し、彼はまた、1989年に到来した第三の天使の運動を表すベルシャツアルの型である。このため、第四章にあるネブカドネツアルの第二の夢は、第一の天使のメッセージを表している。

ネブカドネザルの「七つの時」は、来るべき裁きの警告のメッセージが到来した1798年の「終わりの時」に終結した。「日数の終わり」には彼は回心した人となっており、そのことによって、地から上って来た獣の、小羊のようであった時期の共和主義の角を表している。彼は同時に、地から上って来た獣のフィラデルフィア時代のプロテスタントの角も表している。

バビロンの初代の王として、彼はバビロン最後の王ベルシャザルを象徴している。彼の裁きはニムロデの裁きによって象徴され、さらにベルシャザルの裁きをも象徴した。彼の裁きは、1844年10月22日の調査審判の開始を象徴していた。

ネブカドネザル王より、全地に住むすべての民、諸国民、諸言語の者たちへ。あなたがたに平安が増し加わるように。いと高き神が私に行われたしるしと不思議を知らせるのが良いと思った。そのしるしはなんと偉大で、その不思議はなんと力強いことか。その王国はとこしえの王国、その支配は代々に及ぶ。私ネブカドネザルは、自分の家で安らかにし、宮殿で繁栄を極めていた。私は私を恐れさせる夢を見、寝台の上での思いと頭に浮かぶ幻が私を悩ませた。ダニエル書 4:1-5。

その夢はネブカドネザルを恐れさせ、その夢の象徴は、人々に「神を恐れよ」と命じる第一の天使の永遠の福音を表している。

また、私はもう一人の御使いが天の中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者たち、あらゆる国民、部族、言語、民に宣べ伝えるための永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った。「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである。天と地と海と水の泉を造られた方を礼拝せよ。」ヨハネの黙示録 14:6、7。

永遠の福音は三段階から成るメッセージである。第一の天使に示されているように、第一の段階は神を恐れること、第二の段階は神に栄光を帰すること、第三の段階は神の裁きの時によって表される。「栄光」は品性を表す。また、ニムロデの反逆の物語にある二度目の「さあ」の箇所では、町と塔の品性が調査された。それは調査審判であった。教会と国家の結合は獣の像であり、ニムロデの第二の段階は獣の像を現すことだった。しかし、永遠の福音の第二の段階は、ニムロデのものではなく、神の品性の栄化をもたらす。

ネブカドネザルの恐れは第一の試練の象徴であり、ダニエルがバビロンの食事を口にしないことを選んだのも同様であった。ダニエルは神を恐れていたからである。第一の天使は1798年に歴史に現れ、その後1840年8月11日に力を受けた。ネブカドネザルの夢は、第一のメッセージの到来が1798年の終わりの時であることを示している。

私は恐ろしい夢を見、寝床での思いと頭に浮かぶ幻に悩まされた。そこで私は、バビロンのすべての知者たちを私の前に召し出すよう布告し、その夢の解き明かしを私に知らせてもらおうとした。すると、呪術師、占星術師、カルデヤ人、ト者たちが入って来たので、私は彼らの前で夢を語った。しかし彼らはその解き明かしを私に知らせることができなかった。ついに、私の神の名にちなんでベルテシャザルと名づけられ、聖なる神々の霊が宿っているダニエルが、私の前に来た。私は彼の前で夢を語って言った。「ああ、ベルテシャザルよ、呪術師たちの長よ。あなたのうちに聖なる神々の霊があり、どんな秘事もあなたには難しいことではないことを私は知っている。私が見た夢の幻とその解き明かしを教えてくれ。」ダニエル書 4:5-9。

終わりの時にあたる1798年における第一のメッセージの到来は、ネブカドネザルの恐れによって表されており、ダニエル書の封印が解かれるべき時点を示している。

しかし、あなたは、ダニエルよ、この言葉を閉ざし、書を封じ、終わりの時までとせよ。多くの者があちこちを行き巡り、知識は増し加わる。…そして彼は言った。「行きなさい、ダニエルよ。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封じられている。多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうち誰ひとりも悟らない。だが、賢い者は悟る。」ダニエル書 12:4、9、10。

「終わりの時」にダニエル書の封印が解かれたとき、人々は来て知識の増大を探究するよう招かれ、その呼びかけはやがて二種類の礼拝者を生み出した。一方の者たちは理解できず、もう一方は理解できた。「魔術師、占星術師、カルデヤ人、呪法師」として表されるバビロンの賢者たちは理解できなかったが、ダニエルは理解した。バビロンの「賢者たち」は理解できなかった。それゆえ彼らは悪しき者を表している。ダニエルは賢い者を表していた。

ダニエル書第4章は次回の記事で続けます。

神の働きに不忠実な者は原則に欠けている。彼らの動機は、いかなる状況にあっても正しいことを選ばせる性質のものではない。神のしもべは常に、自分が雇い主の目の下にあることを感じていなければならない。ベルシャツアルの冒瀆の宴を見張っておられたお方は、私たちのあらゆる施設に、商人の会計室に、個人の作業場におられる。そして、その血の気のない手は、冒瀆の王に対する恐るべき宣告を記したのと同じ確かさで、あなたの怠慢をも確実に記録している。ベルシャツアルへの断罪は火の文字でこう記された。「あなたは秤にかけられ、足りないと見いだされた」。もしあなたが神から与えられた義務を果たすことを怠るなら、あなたへの断罪も同じである。『若者たちへのメッセージ』 229.